

# 地域遺産を大切に、生き生きと暮らす



## 地域づくり

朝日町エコミュージアム研究会

西澤 信雄

朝日町でエコミュージアム研究会ができたのは、平成元年である。いわゆるバブルがピークを迎え日本中が、地域開発の切り札はリゾート開発だと、テーマパーク、ゴルフ場、観光ホテル、リゾートマンションの建設を先を争って造っていたころである。

当時は私は、子供たちに地域の自然や、文化を知ってもらおうと朝日ナチュラリストクラブというグループをつくって活動すると共に、清里環境教育フォーラムという日本型の環境教育を研究するグループに入っていた。

この会で、『地域おこしと環境教育』というテーマで分科会に参加した時、ある大手ゼネコンの開発業者の関係者から、「リゾート法、リゾート法というが、今からいくら頑張っても地域開発しても、コスト的に合う場所は日本には無い、合う場所のすべてはもう既に開発業者が買っている」と聞いた。

そこで、乱開発をせざるもつと地域の環境を大切にし、そこに住む人々の生活や伝統に学び、文化や自然に誇りをもって語れるよう

な地域づくりはないだろうか、と考えていたときに出会ったのがこのエコミュージアムである。

『地域全体が博物館、町民全員が学芸員』、『エコ』+『ミュージアム』と言う斬新な発想に魅入られて、朝日町に日本最初のエコミュージアムを造ろうと取り組んできた。

当時は、エコミュージアムの資料がほとんどなく手探りの状態で、資料を集めたり外国語の資料を訳してもらったりした。

最初に見つけた資料をもとに、平成元年フランスに一人でエコミュージアムを見学に行ったのも今から考えるとなつかしいことで、日本から来た最初の見学者だと聞いた。

最近では多くの地域や人から、同じような試みをしていることを聞き、土木型行政主導箱もの開発から、「学習型民間主導ネットワーク開発」に変わってきていると感じる。

さらに、農林水産省が、平成十年度から『田園空間博物館構想』というエコミュージアムの考え方を取り入れた事業を始めたと聞

き、ますますそう感じている。

エコミュージアムは、一九七一年フランス人の博物館学者アンリ・リビエールによって考えられた、まったく新しい考え方の博物館学である。エコとはエコロジー（生態学）のことで、直訳すれば「生態博物館」となる。その目的は、「行政と地域住民が一体となつて、地域の生活と自然及び社会環境の発達過程を史的に探求し、自然及び文化遺産を現地において保存し育成し、展示することを通して、その地域の発展に寄与すること」である。

この目的からエコミュージアムは「生活環境博物館」「町ぐるみ博物館」「屋根の無い博物館」等とも意識されている。

第一に地域の人々のための学校である。地域の人々が地域の自然、文化、歴史を学ぶことにより、自分の住む地域の良さを認識し、地域に誇りを持って生活するための学校である。

第二に、地域の自然遺産、文化遺産、生産遺産等の保護と育成のセンターである。地域



の人々が生き生きと生活するためのシンボルを地域から見つけたし、体験し、保護し、育成していくことが大切である。

第三に地域のことを地域の人々が考えるための研究所である。すなわち地域の人々が地域の特性を研究し、それに適応した生活、生産などを確立するための研究所である。

なぜ朝日町でエコミュージアムが取り入れられたのか、基本構想からたどってみる。

第二次総合開発計画で「美しい自然に包まれた人間性豊かな生きがいのある町」づくりを進め、自然との共生をめざした町営の宿泊

施設「自然観」の設置や、清流を取り戻すために、合併浄化槽の普及、空気や環境に感謝する「空気神社」の建立、さらに「地球にやさしい町宣言」を行なっている。

まさに朝日町が環境を意識していた時、平成元年、私たちは「エコミュージアム研究会」を作り、生活と環境を大切に楽しめる町づくりエコミュージアムの実現を町に提案した。

平成三年、第三次総合開発基本構想では、基本理念を「楽しい生活環境観・エコミュージアムの町」づくりに決めた。

さらに、平成十二年に決まった、第四次総合開発計画でも、引き続きエコミュージアムを基本理念にして、「自然と人間が共生し、しっかりと暮らしを築く、エコミュージアムのまち」として取り組むことになっている。

平成三年に朝日町は、フランスに視察研修を行い、その後、視察したバスセーヌから専門家を招き、国内では初めてのエコミュージアムの国際会議を開催し、多くの参加者を集めることが出来た。そして行政と民間共同のシンクタンクを「朝日町エコミュージアム研究機構」として設立した。

この研究機構では、エコミュージアム実現のために具体策の検討を行った。デザイン計画、サテライトの選定や、サテライトの仕組みと、町の案内人を養成するためのプログラムを作成した。

一方、私たちのエコミュージアム研究会では、町の生涯学習課との協力で、エコミュージアムを地域で実践し、理解してもらおう行事を、毎年遺産のある現場で開催してきた。地域の遺産のシンポジウム、劇、

人形劇、音楽会、神楽、舞楽の上演など、地区の住民とともに行う行事は多くの人の参加を呼び、地域を見直し誇りを持つ機会になりつつある。

また、地元中学生が選んだ「町の宝物」をカルタにし、小学生のいる家庭に配って、カルタ大会を行い、子供たちにも地域の遺産や宝物に関心を持ってもらえるような行事も開催している。

そして一昨年、町の案内人養成講座を開き、講座修了者によって、町の案内人「エコミュージアムガイド」の会」が設立された。

いよいよ、この六月に図書館、ホールなどを兼ねたエコミュージアムコアセンターが完成する。ここに、昨年設立されたNPO「朝日町エコミュージアム協会」の学芸員が配置され、運営は行政と民間の二重入力で行うことになっている。

これで安定した組織ができ、サテライトが整備され、学芸員がいて、案内人が生まれた。研究会が出来て十二年、私は、やっと日本最初の本格的なエコミュージアムが山形県朝日町に生まれたと自信をもって言える。

## 西澤 信雄

1948年大津生まれ

1975年より朝日鉱泉ナチュラルストの家を経営する。現在、朝日町エコミュージアム研究会代表、NPO法人朝日町エコミュージアム協会理事、日本エコミュージアム研究会理事。